科目ナンバー	BUA-3-018-jk			科目名	バーチャルカンパニー						
教員名	村山 賢哉、	兼本 雅章		開講年度学期	2020年度	前期	単位数	2			
概要	起業家教育プログラム「Youth Enterprise」を利用し、仮想企業を立ち上げる。これを運営する模擬体験を 通して、起業意欲・商品開発・ITスキル・情報倫理など情報化社会において必要となる知識・技能を総合 内に学習する。										
到達目標	群馬県をテーマにした仮想企業を運営し、12月に行なわれる仮想企業の見本市「Youth Enterprise トレードフェア」に参加することを第1の目標とする。さらに、世の中で売れる新商品を開発することを第2の目標とし、それをどのように売るかを考え、商品化していくことを第3の目標とする。実際に企業・自治体などと連携しながら進めていくため、その関わりを通して、実社会で必要とされる能力を自分達で把握し、是非身につけてもらいたい。また、SNS形式の「Youth Enterprise」に定期的に情報発信を行っていくので、情報化社会における社会への情報発信力を身につける必要がある。										
「共愛12の力」との)対応			_							
識見		自律する力		コミュニケーションカ		問題に対	問題に対応する力				
共生のための知識		自己を理解する力		伝え合う力	0	分析し、	思考する力	0			
共生のための態度		自己を抑制する力	0	協働する力	0	構想し、	実行する力				
グローカル・マイ ンド		主体性		関係を構築す	るカ	実践的	スキル	0			
講義期間を通して、参加者によるグループワークが活動の中心となる。特に、仮想企業設立後は、仮想教授法及び課題の 業ごとのミーティングを頻繁に行うことになる。また、企業・自治体などへの訪問も必要になるため、多フィードバック方 くの授業外学修時間が必要となるので、そのつもりで受講すること。 授業時間内外を問わない教員との密なコミュニケーションによって、学び(仮想企業活動)の進捗管理 やフィードバックを行っていく。								、多			
アクティブラーニン	グ	サービスラーニング			課題角	課題解決型学修					
受講条件 前提 科目	・引き続き「バーチャルカンパニーII」を受講できること。 ・12月に京都で行なわれる「Youth Enterprise トレードフェア」に参加できること。 ※グループワークのため、無断欠席は厳禁である。また、途中での離脱は原則認められない。										
アセスメントポリ シー及び評価方法	グループの進捗状況(20%)、グループワークへの参加状況・貢献度(80%)で総合的に評価する。										
教材	Youth Enterprise(NPO法人アントレプレナーシップ開発センター)を利用する。										
参考図書	授業中に随時指示をする。										
内容・スケジュー ル	グループごとの進捗により内容が変化するが、標準的なスケジュルは以下の通りである。 <4~5月> ・グループ分け:社長および社員の決定 ・商品開発分野決定:グループごとにどのような分野で商品開発を行うかを討議・決定 ・商品開発開始:開発分野が決定し次第、商品案の検討を行う ・支援企業の選定:商品を具現化することができる企業を調査・選定する ・Youth Enterprise投稿開始:SNS形式のYouth Enterpriseへ仮想企業を登録し、情報発信を開始する <6~7月> ・支援企業決定:選定した企業の中から、提携を希望する企業を決定する ・支援企業訪問:企業を訪問し、提携の交渉を行う ・商品の実現性の検討:企業と打ち合わせを繰り返しながら、実現可能な商品案へと昇華させる										

	BUA-3-018-jk		Virtual company I					
Name	村山 賢哉(Murayama Kenya)、兼本 雅章 (Kanemoto Masaaki)	Year and S emester	First semester for 2020	Credits	2			
Course O utline	In this course, we will launch virtual companies and develop new products. Through a simulated e xperience that manages virtual company, students comprehensively learn the knowledge and skills necessary in information society such as entrepreneurial motivation, product development, IT skills and information ethics.							